

令和3年度 足立区地域保健福祉推進協議会 健康あだち21専門部会（令和3年7月書面開催）
ご質問・ご意見回答書

No.	内容	所管の考え	回答課
1	ベジファーストの割合が69%というのは、大きな成果だと思います。なぜこのようにうまく行動変容できたのか、知りたいです。	家庭で取組めるワークシートを保育園・幼稚園児に配付し、野菜から食べたらシールを貼り、10日間貼れたら、先生からプレゼントがもらえる仕組みとしました。コロナ禍でも家庭で取組める事業としたことで、園児だけでなく、保護者への周知ができ、ベジファーストの定着率が高くなったと考えております。	こころとからだの健康づくり課
2	新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的には女性の自殺者が増えているが、足立区は増えていないようなので良かった。その理由がわかるとよい。	令和2年の女性の自殺者は、9月から増加していましたが、前半の減少により前年比横ばいの状況でした。令和2年11月より、SNS相談を中心としたひとり親家庭等向け相談窓口の一覧を、保育園等関係機関に設置していただいたり、Aメール配信を行ったりすることで周知しました。	こころとからだの健康づくり課
3	中年男性の野菜不足、HbA1c上昇が課題とされます。この層をターゲットとした対策が必要とされます。	令和2年度から働き世代への対策として、区内5事業所に対し健康経営を実施しています。今後は、健康経営を通じて、特に男性に対して、からだのチェックや野菜の摂取量を見える化できる取組みを実施し、糖尿病予防に努めていきます。	こころとからだの健康づくり課
4	野菜摂取量に関する取組みは非常に大切に、今後の効果に期待します。これからも幼稚園や学校への啓発活動を一層広めていけたらと思います。一方で、子どもたちの運動不足や肥満児の増加傾向を懸念しています。	「ひと口目は野菜から」等の啓発を、保育園や学校で子ども達に直接行うだけではなく、家庭等にも拡大し、望ましい食習慣の定着を図っていきます。その取組みが肥満予防につながると考えています。	こころとからだの健康づくり課

No.	内容	所管の考え	回答課
5	食育活動の「ひと口目は野菜から」等の啓発活動については、まだまだ浸透不足感が否めません。身近なところから活動を広めていければと思っています。	「野菜から食べる」啓発は、保育園や学校、ベジタベライフ協力店等に加え、民間企業や生命保険会社、健康づくり推進員などのヘルスポランティアと協働し、推進していきます。	こころとからだの健康づくり課
6	ヘモグロビンA1c6.5%以上の人の生活習慣の見直しと、医療機関への受診勧奨は重症化予防の今後の課題と考えます。	40歳前の健康づくり健診では、ヘモグロビンA1c6.5%以上の方へ、生活習慣の見直しにつながる保健指導及び受診勧奨を実施しています。また、国保特定健診では、ヘモグロビンA1c7%以上の未治療者に対し、受診勧奨を行ない、重症化予防対策を実施しています。今後も、継続して重症化予防対策に努めてまいります。	こころとからだの健康づくり課